

スリランカ人日本語学習者の助詞「は」と「が」の誤用分析
—ケラニヤ大学の日本語学習者を対象に—

チャマーリハンサニ

群馬大学日本語・日本文化研修留学生

教育学部

14187002

目次

- 1 はじめに
2. 研究目的
3. 先行研究
- 4 調査方法
 - 4.1 対象者
 - 4.2 調査内容
 - 4.2.1 穴埋めテスト
 - 4.2.2 「は」と「が」を記入した理由を選ぶ選択テスト。
 - 4.3 分析方法
- 5 調査結果
 - 5.1 「が」の結果
 - 5.1.1 正答率の高い用法
 - 5.1.2 正答率の低い用法
 - 5.2 「は」の結果
 - 5.2.1 正答率の高い用法
 - 5.2.2 正答率の低い用法
6. 分析と考察
 - 6.1 「が」の分析と考察
 - 6.1.1 述部に、前に出てきた名詞と同じ名詞がある時、主語につける「が」
 - 6.1.2 能力があるかないかを表す「できる」「わかる」を述部にした文に使う「が」
 - 6.1.3 名詞修飾の「が」
 - 6.1.4 多数の主語の中から一つ選ばせる質問とその答えの「が」
 - 6.1.5 「からだ」、「ためだ」を使った文の理由を述べる部分の中で使う「が」
 - 6.2 「が」の正答数と選択した理由の関係
 - 6.3 「が」の分析と考察
 - 6.3.1 対比を表す「は」
 - 6.3.2 最低限を表す「は」
 - 6.3.3
 - 6.4 「は」の正答数と選択した理由の関係
7. まとめ今後の課題

1. はじめに

スリランカの教育は、日本と同様に小学校、中学校、高校、大学の4段階に分けて行われている。小学校は1年生から5年生で、6歳から10歳の児童である。中学校は6年生から11年生で、11歳から16歳の生徒である。高校は12年生から13年生で、17歳から18歳の学生である。大学は4年間で20歳から24歳の学生である。

スリランカで行われる日本語教育は、中学校から始まる。中学校5年生（16歳）から選択科目として初級から中級レベルおよび大学では中級から上級レベルまでの日本語教育が行われている。初級から上級までの日本語教育は国のカリキュラムを基に行われ、教材は『日本語初歩』やスリランカの文部科学省が作成した日本語教科書『初級日本語総合教科書 スリランカ高校日本語 Aレベル』、また『文化中級日本語』が使われている。

日本語を勉強するスリランカの母語話者には、把握しにくい文法として「は」と「が」の使い分け、受身、敬語がある。その文法の中でも「は」と「が」の使い分けは特に難しい。学生が書く文章の中で間違いが最も多いのは助詞の「は」と「が」である。筆者はスリランカの大学で論文指導の授業を受け、始めにA41枚程度の作文を書く課題があった。この授業を履修していた学生が書いた作文を授業の担当の先生に直していただいたところ、「は」と「が」の間違いが多いことが分かった。筆者も長年日本語を勉強してきたが、文章を書くときには、今でも「は」と「が」のどちらを使えば良いか分からなくなり、間違えることが多くある。

会話をする時は、「は」と「が」を使わなくてもほとんど意味が通じる。しかし、文章を書く時は、「は」と「が」を適切に使わないと意味が通じない場合がある。そのため「は」と「が」の使い分けを正しく身につける必要がある。

スリランカで行われる日本語の授業でどのように「は」と「が」の指導が行われているかを概観すると、初級レベルでは教材として使う『日本語初歩』教科書の授業の中で出てくる「は」と「が」の例文が文法解説に書いてあり、それを読みながら文レベルで文型として教えている。中級レベルでも初級レベルと同じような方法で指導しているが、中級レベルで使う教科書『初級日本語総合教科書 スリランカ高校日本語 Aレベル』の扉のページの後には、一つ一つ授業のめあてが書いてある。助詞「は」と「が」に焦点を当てる授業にも最初にめあてやウォーミングアップ練習が掲載されている。ウォーミングアップの問題で練習してから、文レベルで文型として「は」と「が」を学んでいる。上級レベルでは主に、『文化中級日本語』教科書の本文に出てくる「は」と「が」の文を取り上げ、「は」と「が」の様々な意味や機能が説明されている。しかし、中級の教科書には、「は」と「が」の使い分けについて説明が載せられていないため、教室では明確な指導は行われていない。これが原因で学習者は「は」と「が」についてある文法規則をよく分っていないことが、「は」と「が」を使う際困難を感じる理由の一つであると考えられる。

また、スリランカ人が使用するシンハラ語には、日本語と同じように「は」と「が」のような使い分けをする助詞がないため、「は」と「が」の区別を意識しにくい理由のもう一つであろう。

このような状況の中で、スリランカ人の日本語学習者には、「は」と「が」を使う際にあう問題を解決するため、スリランカ人の日本語学習者が誤用しやすい「は」と「が」の用法やその原因を明らかにすることが必要であると思われる。そこで、本研究ではスリランカ人が日本語を使用する際に誤用しやすい「は」と「が」の用法や、その原因を調査することとした。

2. 研究の目的

本研究の研究目的は、スリランカ人の日本語学習者の「は」と「が」を使用する際の問題を解決するため、学習者にとって習得することが難しい「は」と「が」の誤用しやすい用法やその原因を明らかにすることである。スリランカ人日本語学習者にとって「は」と「が」の機能のうち、習得が難しいものは何かをアンケート調査し、その結果について考察する。

3. 先行研究

日本語学習者の「は」と「が」の使い分けについて、ある特定の母語話者を対象とした調査が報告されている。謝・金城（2005）は日本語と統語論上、似た体系を持つとされる韓国語母語話者と、日本語の文法体系と異なる文型を持つとされる中国語母語話者の「は」と「が」の使い分けについて比較しながら、それぞれの母語話者の特徴を明らかにし、学習上または指導上、留意すべき点を検討した。調査では、「は」と「が」の意味と用法を細かく分けて、誤用率が高い順から低い順に整理している。中国語母語話者 34 名と韓国語母語話者 20 名の留学生を対象に、「は」と「が」の誤用を認識するための穴埋めテストを行った。その調査の結果によると中国語母語話者と韓国語母語話者、両者の誤用率の高い用法として以下の 3 点が見られた。

- ① 思いがけない出来事・驚いた出来事の「が」
- ② 名詞を修飾する節の主語と主文の主語が同じ時の「は」
- ③ 疑問補文「～が」

また、バクー国立大学のアゼルバイジャン人母語話者の中・上級レベルの学習者に、「は」と「が」の用法のうち習得しにくいものを明らかにすることや、「は」と「が」の使い分けにどのような判断基準を用いているかを研究したものに、Ibrahimov(2010)がある。Ibrahimov は、アゼルバイジャン人の日本語学習者にとって誤用しやすい「は」と「が」の用法を明らかにするため、穴埋めテストや翻訳テスト、穴埋めした助詞の選択理由を答えさせるアンケート調査を行った。その調査によって、取得しにくい用法として以下の 5 つがあることが明らかとなった。

- ① 述部に、前に出てきた名詞と同じ名詞がある時、主語につける「が」
- ② 思いがけないことが起こったときの「が」
- ③ 「～は～が～です。」の形で名前の性質を表す「は」および「が」
- ④ 多数の主語の中から一つ選ばせる質問とその答えの「が」
- ⑤ 従属節の中で使われる「が」

日本語を勉強する外国人の学習者が、「は」と「が」を学習する場合に誤用しやすい理由について検討した佐治（1984）は次のように分析している。「『は』と『が』を含めて「助詞」と呼ばれる文法機能を担う形式が、日本語にはたくさんあり、それらが前後の語句を結びつけたり、いろいろな関係を示したりすることによって、日本語の文はでき上がっていくのである。しかし外国語の多くは、助詞に相当するような形式をほとんど持たないか、持っても日本語の助詞のあり方と違って、そのために助詞全体に対する理解が困難であることが基底に

ある。「が」と「は」は、「主語」「主格」「主題」といった日本語の構文の最も重要な部分にかかわり、述語と共に日本語構文の根幹を担うものであるだけに、その現れ方も複雑であって、それが「は」と「が」の理解の困難な理由の一つになっている。「は」と「が」は、前者は、係助詞、或いは提示助詞と呼ぶべき助詞であり、後者は格助詞の一つであって、その種類、その性格を共にするものであるために、説明も複雑にならざるを得ず、したがって、理解もはなはだ困難なのである。」

助詞の中でも「は」と「が」の意味と用法は細かく多様で、それらの習得について今までの先行研究の中では、いろいろな言語を母語とする学習者を対象に研究が行われている。しかし「は」と「が」の使い分けに関する日本語とシンハラ語の文法概念（宮岸 2010）などの調査は見られるが、シンハラ語母語話者を対象にした「は」と「が」の誤用に関する研究はないため、本研究では「は」と「が」の用法を細かく分類し、習得上の困難点や誤用の要因を検討した。

4. 調査の方法

4.1 対象者

調査の対象者はシンハラ語を母語とする日本語学習者 12 名と日本人の学生 5 名である。スリランカ人の「は」と「が」の使用方法の認識と、日本人の使い方のズレを比較するためや問題文の助詞の正答を確認するため、群馬大学の社会情報学部（日本語母語話者）にもアンケート調査をした。

- ① スリランカのケラニヤ大学の日本語学科で勉強している学習者、2 年生（22 歳）3 名（JLPT N3-N2 相当）
- ② スリランカのケラニヤ大学の日本語学科で勉強している学習者、3 年生（23 歳）9 名（JLPT N4-N2 相当）
- ③ 群馬大学の社会情報学部で勉強している日本人の 1 年生（19 歳）5 名。

4.2 調査内容

筆者は、多くの例文を示しながら様々な「は」と「が」の用法や使い分けについて細かく書かれた野田尚史（1985）、庵・高梨他（2000・2001）、友松悦子・和栗正子（2007）の 3 冊の本から、学習者が誤用しやすいと推測される用法 18 通りと、比較的簡単なものと思われる用法 4 通りを選んでいる。本研究では、この 3 冊の本から選んだ用法を分類してから表を作成し、3 冊の本を参考にして筆者は自分で例文を作った。さらに、用法を選ぶ際には、スリランカのケラニヤ大学の 2 年生が書いた作文から、「は」と「が」の誤用を分析し、多くの間違いが見られた用法を選択した。学生が書いた作文の中で誤用が多く見られた用法は、新情報や旧情報の際使う「は」と「が」に関するものである。学生が書いた作文の中で見られた間違いが多かった用法を含め、問題文の中で学習者が理解しにくいと思われる単語はシンハラ語に訳し、問題を作成した。そして、次の調査を行った。

- ① 文章の中の空欄に「は」と「が」を入れる穴埋めテスト
- ② 文章の中の空欄に「は」と「が」を書いた理由を選ぶ選択テスト

アンケート調査を作成する際には、アゼルバイジャン人対象に「は」と「が」の御用について調査した Ibrahimov (2010) を参考にしている。

4.2.1 穴埋めテスト

「は」と「が」の用法を合計 22 用法に整理し、その 22 用法を基に問題文のテーマを 16 問作成した。問題文の内容は会話レベルのものと、文レベルのもの大きく分けて 2 種類に分類した。

会話レベルの問題として総合的に考えて答える文である。下に示してある文は会話レベルの具体的な例である。

- 例：A: デザート (21. は) 何にしますか。
 B: ケーキもアイスクリームもおいしそうですね。
 A: ケーキ (22. が) いいですか。それともアイスクリーム (23. が) いいですか。
 B: そうですね、アイスクリーム (24 が) いいです

文レベルの問題としてひとつの分から判断できるぶんである。以下にある分は文レベルの例である。

- 例：去年の冬 (30.は) 寒かったが、今年の (31.は) 暖冬だ。

表 1 問題文の内容

| | |
|----------|-------------------------------------|
| 会話レベルの問題 | 問 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 13, 14 |
| 文レベルの問題 | 問 10, 11, 12, 15, 16 |

問題文のテーマは 16 問であるが、空欄に「は」と「が」を記入させる問題は全 52 問である。アンケート問 4 の「あの辺は緑が豊かで、山もきれいです。」のように「～は～が～です」の形で一文の中に「は」と「が」、問 11 の「去年の冬は寒かったが、今年の冬は暖冬だ。」のように対比を表す「は」の両方を答えさせる名詞の性質を表す用法 (表 2 の「が」の用法項目の 5 と「は」の用法項目の 5) では、学習者が「は」と「が」の両方を正しく回答できた場合だけを正答とした。

「は」と「が」を解答させる質問項目の用法とその問題数を表 2 に示す。

表 2 「は」と「が」の用法項目別の問題数

| 番号 | 「が」の用法の項目 | 問題数 |
|----|-------------------------------------|-----|
| 1 | 複文の従属節で使われる「が」 | 2 |
| 2 | 疑問詞の後にくる「が」とその答えの「が」 | 1 |
| 3 | 経験を表す時使う「が」 (～ことがあります) | 1 |
| 4 | 存在を表す時使う「が」 | 2 |
| 5 | 現在の状況や思いがけないことが起きたときの「が」 | 1 |
| 6 | 比較を表す時の「が」 (～のほうが) | 1 |
| 7 | 「～は～が～です」の形で名詞の性質を表す「が」 | 4 |
| 8 | 新情報に付く「が」 | 6 |
| 9 | 多数の主語の中から一つ選ばせる質問とその答えの「が」 | 3 |
| 10 | 「からだ」、「ためだ」を使った文の理由を述べる部分の中で使う「が」 | 1 |
| 11 | 名詞修飾の「が」 | 2 |
| 12 | 能力があるかないかを表す「できる」「わかる」を述部にした文に使う「が」 | 1 |

| | | |
|------------------|----------------------------------|-----------|
| 13 | 述部に、前に出てきた名詞と同じ名詞がある時、主語につける「が」 | 2 |
| 「は」の用法の項目 | | |
| 1 | 否定形を表す時使う「は」 | 1 |
| 2 | 複文の主節で使われる「は」 | 1 |
| 3 | 疑問詞の前にかかる「は」とその答えの「は」 | 3 |
| 4 | 「～は～が～です」の形で名詞の生質を表す「は」 | 4 |
| 5 | 主語についての説明の時の「は」（主題を表す「は」 | 3 |
| 6 | 旧情報に付く「は」 | 7 |
| 7 | 「からだ」「ためだ」使った文の事実を述べる部分の後ろに付く「は」 | 1 |
| 8 | 対比を表す「は」 | 4 |
| 9 | 最低限を表す「は」 | 1 |
| 10 | 取り立て | 10 |
| 合計 | | 52 |

4.2.2 「は」と「が」を記入した理由を選ぶ選択テスト

さらに4.2.1文のような空欄に「は」と「が」のどちらかを選択し、記入する穴埋めテスト形式の問題52問それぞれについてa)理由がよく分かります、b)なんとなく正しいと思います、c)習いましたが、忘れました、d)まだ習っていませんの4つの中からどのような意識で選んだのかを問うアンケートを実施した。

4.3 分析方法

表2の分類に従ってそれぞれの問題に対する解答を「は」と「が」の用法に分類し、「は」と「が」を埋める穴埋めテストの正答数を算出した。そして、表2の分類に従って、それぞれの用法の平均正答数を計算した。次に、「は」と「が」を選んだ理由を選択するテストの分析を行い、問題文のそれぞれの問の解答を選択した理由に対する人数を算出した。その後、平均数を計算しそれぞれの用法の平均正答数と選んだ理由の関連を考察した。

5 調査結果

5.1 「が」の結果

学習者の解答を分析する際、8人以上が正答した用法を正答率の高い用法、7人以下を正答率の低い用法とした。表3は、穴埋めテストの「が」の用法別に平均正答率及び選んだ理由の平均率を示す。

表3 「が」の平均正答数

| 番号 | 用法 | a 理由がよく分る | b なんとなく正しいと思う | c 習いましたが、忘れた | d まだ習っていません | 合計 |
|----|----|-----------|---------------|--------------|-------------|----|
| | | | | | | |

| | | | | | |
|----|-------------------------------------|----|---|---|----|
| 1 | 複文の従属節で使われる「が」 | 11 | 1 | | 12 |
| 2 | 疑問詞の後にくる「が」とその答えの「が」 | 11 | 1 | | 12 |
| 3 | 経験を表す時使う「が」(～ことがあります) | 10 | 2 | | 12 |
| 4 | 存在を表す時使う「が」 | 10 | 1 | | 11 |
| 5 | 現在の状況や思いがけないことが起きたときの「が」 | 10 | 1 | | 11 |
| 6 | 比較を表す時の「が」(～のほうが) | 9 | 1 | 1 | 11 |
| 7 | 「～は～が～です」の形で名詞の性質を表す「が」 | 8 | 3 | | 11 |
| 8 | 新情報に付く「が」 | 5 | 2 | 1 | 8 |
| 9 | 多数の主語の中から一つ選ばせる質問とその答えの「が」 | 3 | 4 | | 7 |
| 10 | 「からだ」、「ためだ」を使った文の理由を述べる部分の中で使う「が」 | 3 | 4 | | 7 |
| 11 | 名詞修飾の「が」 | 3 | 3 | | 6 |
| 12 | 能力があるかないかを表す「できる」「わかる」を述部にした文に使う「が」 | 3 | 3 | | 6 |
| 13 | 述部に、前に出てきた名詞と同じ名詞がある時、主語につける「が」 | 2 | 1 | | 3 |

5.1.1 「が」の正答率の高い用法

表3の「が」の13用法の中で平均正答率が高い(12人中8人以上)と考えられる用法は次の7つである。

- ① 「私はそばに猫がいると、いつも、話しかけてしまう。」のように複文の従属節で使われる「が」(12人)
- ③ 「今、日本文学を教えてください。教授が定年になったら、だれが次の日本文学の教授になりますか。」のように疑問詞の後にくる「が」(12人)
- ③ 「A: イスルさんは何回シーギリヤに登ったことがありますか。B: 6,7回登ったことがあります。」のように経験を表す時使う「が」(12人)
- ④ 「ゾウには、アジアゾウとアフリカゾウという2種類がいる。」のように存在を表す時使う「が」(11人)
- ⑤ 「「大変だ。郵便局の前で交通事故が起きた。」のように現在の状況や思いがけないことが起きた時使う「が」(11人)
- ⑥ 「A: ヌゲーゴダやマハラガマへよくいきますか。B: そうですね。マハラガマへよく行きます。A: マハラガマのほうが家から近いのですか。」のように比較を表す時(のほうが)使う「が」(11人)
- ⑦ 「アジアゾウは耳が小さく、アフリカゾウは耳が大きいと言う。」のように「～は～が～です」の形で名詞の性質を表す時使う「が」(11人)

5.1.2 「が」の正答率の低い用法

13通りの「が」の用法の中で平均正答数が低い(12人中8人以下)、と考えられる用法は5である。

- ① 述部に、前に出てきた名詞と同じ名詞がある時、主語につける「が」
- ② 能力があるかないかを表す「できる」「わかる」を述部にした文に使う「が」

- ③ 名詞修飾の「が」
- ④ 多数の主語の中から一つ選ばせる質問とその答えの「が」
- ⑤ 「からだ」、「ためだ」を使った文の理由を述べる部分の中で使う「が」

平均正答率が低かったこの5つの用法の分析と考察を例文を挙げて6.1説明する。

5.2 「は」の結果

表4は、穴埋めテストの「は」の用法別に平均正答数及び選んだ理由の平均数を示す。

表4 「は」の平均正答数

| 番号 | 用法 | a 理由がよく分る | b なんとなく正しいと思う | c 習いましたが、忘れた | d まだ習っていません | 合計 |
|----|-----------------------------------|-----------|---------------|--------------|-------------|----|
| 1 | 否定形を表す時使う「は」 | 9 | 3 | | | 12 |
| 2 | 複文の主節で使われる「は」 | 10 | 1 | | | 11 |
| 3 | 疑問詞の前にくる「は」とその答えの「は」 | 6 | 4 | 1 | | 11 |
| 4 | 「～は～が～です」の形で名詞の生質を表す「は」 | 7 | 3 | | | 10 |
| 5 | 主語についての説明の時の「は」（主題を表す「は」） | 6 | 3 | | | 9 |
| 6 | 旧情報に付く「は」 | 5 | 2 | 1 | | 8 |
| 7 | 「からだ」「ためだ」を使った文の事実を述べる部分の後ろに付く「は」 | 3 | 4 | 1 | | 8 |
| 8 | 対比を表す「は」 | 3 | 1 | 1 | | 5 |
| 9 | 最低限を表す「は」 | 2 | 2 | 1 | | 5 |

5.2.1 「は」の正答率の高い用法

表4の「は」の9用法の中で、正答数が高い（12人中8以上）と考えられる用法は以下の5つである。

- ① 「いいえあれは私の家ではありません。」のように否定形を表す時使う「は」（12人）
- ② 「私はそばに猫がいて、いつも話しかけてしまう。」のように複文の主節で使われる「は」（11人）
- ③ 「イスルさんは何回シーギリヤに登ったことがありますか。」のように疑問詞の前にくる「は」とその答えの「は」（11人）
- ④ 「あの辺は緑が豊かで、山もきれいです、」のように「～は～が～です」の形で名詞の生質を表す「は」（10人）
- ⑤ 「スリランカは多民族国家で、シンハラ人、タミル人イスラム人がともに暮らしている。」のように主語についての説明の時の「は」（主題を表す「は」（9人）である。

5.2.2 「は」の正答率の低い用法

9用法の中で平均正答数が低い（12人中8以下）と考えられる用法は、以下の2つである。

- ①対比を表す「は」（5人）
- ②最低限を表す「は」（5人）。

この2つの用法について6.3詳しく説明する。

6. 分析と考察

6.1 「が」の分析と考察

「が」の用法の中で、正答率が低いと思われる用法について、実際の問題と回答者数、また日本人との回答と比較しながら考察する。

6.1.1 述部に、前に出てきた名詞と同じ名詞があり相手に伝えたい部分が主語である時使う「が」

穴埋めテストでは、述部に、前に出てきた名詞と同じ名詞があり、主語につける「が」の用法に対する問（穴埋め）を2つ作成した。その2つの問の中から1の例を挙げる。

A: ここからヒマラヤ山（35. ）見えますか。

B: ええ、あれ（36. ）ヒマラヤ山です。

この上記に示した問題のスリランカ人と日本人の正答数を表5に示す。

ここではローマ字の記号は「は」と「が」を選んだ理由の選択肢の記号である。

- a) 理由がよく分かります
- b)なんとなく正しいと思います
- c) 習いましたが、忘れました
- d) まだ習っていません

表5 36の問に対する解答

| | は a | は b | は c | は d | が a | が b | が c | が d | 合計 は | 合計 が |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------|---------|
| スリランカ人 | 9 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 11 | 1 |
| 日本人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |

6.1.2 能力があるかないかを表す「できる」「わかる」を述部にした文に使う「が」

私（15. ）そばに猫（16. ）いると、いつも、話しかけてしまう。しかし、猫（17. ）人間の言うこと（18. ）完全に分るわけではない。

この問題は「能力があるかないかを表す『できる』『わかる』を述部にした文に使う「が」を選ばせる問題である。この問題に正しい答えを記入した学習者は6人だけでその中で理由が分かって答えを選んだと答えた人は3人だけあった。空欄18「は」を選んだ人はこの文の後ろに否定を表す「わけではない」ない形をつけているから否定を表す文だと判断したかもしれない。

表6 18の問に対する解答

| | は a | は b | は c | は d | が a | が b | が c | が d | 合計は | 合計が |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| スリランカ人 | 4 | 1 | 1 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 6 | 6 |
| 日本人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |

6.1.3 名詞修飾の「が」

名詞修飾の場合使う「が」の用法に対する問（穴埋め）は2つ穴埋めテストに入れた。この2つの空欄に正しく答えを選んだ人は少なかった（平均正答数6人）。穴埋めテストに入れた例文の1つを下に示す。ただし、正答者の中で選択し a) 理由がよく分かりますと選んだ人は一人だけであるため、スリランカ人の日本語学習者は名詞修飾の「が」について明確に意識できてないと考えられる。

私の家族 (32.) コロンボに引っ越したの (33.)、父 (34.) 転勤になったからです。

表7 32の問に対する解答

| | は a | は b | は c | は d | が a | が b | が c | が d | 合計は | 合計が |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| スリランカ人 | 6 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 9 | 3 |
| 日本人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |

6.1.4 多数の主語の中から一つ選ばせる質問とその答えの「が」

多数の主語の中から一つ選ばせる質問とその答えの「が」を記入させる、下に示してある問題の答えを全部できた人は少なかった。空欄22と23には正しい答えを選んだ人が半分以上いたが、理由がわかって自信を持って答えさせた人は少なかった。なんとなく正しいと答えた人が比較的にかつたことで、正しい答えが選んだが説明ができないと考えられる。

A: ケーキ (22.) いいですか。それともアイスクリーム (23.) いいですか。

B: そうですね、アイスクリーム (24.) いいです。

表 8 22 の問に対する解答

| | は a | は b | は c | は d | が a | が b | が c | が d | 合計は | 合計が |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| スリランカ人 | 2 | 3 | 0 | 0 | 2 | 5 | 0 | 0 | 5 | 7 |
| 日本人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |

表 9 23 の問に対する解答

| | は a | は b | は c | は d | が a | が b | が c | が d | 合計は | 合計が |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| スリランカ人 | 1 | 4 | 0 | 0 | 2 | 5 | 0 | 0 | 5 | 7 |
| 日本人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |

表 10 24 の問に対する解答

| | は a | は b | は c | は d | が a | が b | が c | が d | 合計は | 合計が |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| スリランカ人 | 0 | 1 | 0 | 0 | 7 | 4 | 0 | 0 | 1 | 11 |
| 日本人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |

「A: ケーキ (22.が) いいですか。それともアイスクリーム (23.が) いいですか。」という例文の空欄 22. 23 に対する正答率は 50% くらいであるが、3 箇所すべてに正答したスリランカ人は 5 人であったため、全体としての正答率は低く、誤用しやすい用法と考えられる。

6.1.5 「からだ」、「ためだ」を使った文の理由を述べる部分の中で使う「が」

この用法に対する問題にも正しい解答を選んだ学習者は 8 人未満で、スリランカ人の日本語学習者にとって習得は困難に感じていると考える。空欄 34 に「は」を選んだスリランカの学習者は、「父 (34.) 転勤になったからです。」という文は複文の主節の主語に使う「は」と考えたと推測される。

また「が」を選んだ人の中でも多くは理由がよく分からなくて選んだことが明確である。私の家族 (32.) コロンボに引っ越したの (33.)、父 (34.) 転勤になったからです。

表 11 34 の問に対する解答

| | は a | は b | は c | は d | が a | が b | が c | が d | 合計は | 合計が |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| スリランカ人 | 4 | 0 | 1 | 0 | 3 | 4 | 0 | 0 | 5 | 7 |
| 日本人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |

6.2 「が」の正答数と選択した理由の関係

「が」の正答率が高かった用法の答えを選んだ理由を分析する際、選択肢「a)理由がよく分かります」を選んだ人が多いことが分かった。具体的に、複文の従属節で使われる「が」(11人)、疑問詞の後にくる「が」とその答えの「が」(11人)、経験を表す時使う「が」(～ことがあります)(10人)、存在を表す時使う「が」(10人)、現在の状況や思いがけないことが起きたときの「が」(10人)、比較を表す時の「が」(～のほうが)(9人)、「～は～が～です」の形で名詞の性質を表す「が」(8人)で、図2の青色で示している通りである。「が」の正答率が高かった用法の答えとその答えを選んだ理由との関連の分析を通して、正答率が高かった用法については学習者は明確に正しい用法を意識して選択することができる傾向があることが分かった。

一方、正答率が低かった用法である、述部に前に出てきた名詞と同じ名詞がある時、主語につける「が」、多数の主語の中から一つ選ばせる質問とその答えの「が」、「からだ」、「ためだ」を使った文の理由を述べる部分の中で使う「が」、名詞修飾の「が」、能力があるかないかを表す「できる」「わかる」を述部にした文に使う「が」に対する答えを選ぶ際の理由としては、理由をよく理解し、明確な意識を持って解答している人は少なく、なんとなく正解だとして解答している人が多いことが分かった。正答率が低かった「が」の用法を解答する際には、あまり明確な意識を持っていない傾向となった。具体的には以下の通りである。

- ・述部に、前に出てきた名詞と同じ名詞がある時、主語につける「が」(1人)
- ・多数の主語の中から一つ選ばせる質問とその答えの「が」(4人)
- ・「からだ」、「ためだ」を使った文の理由を述べる部分の中で使う「が」(4人)
- ・名詞修飾の「が」(3人)
- ・能力があるかないかを表す「できる」「わかる」を述部にした文に使う「が」(3人)

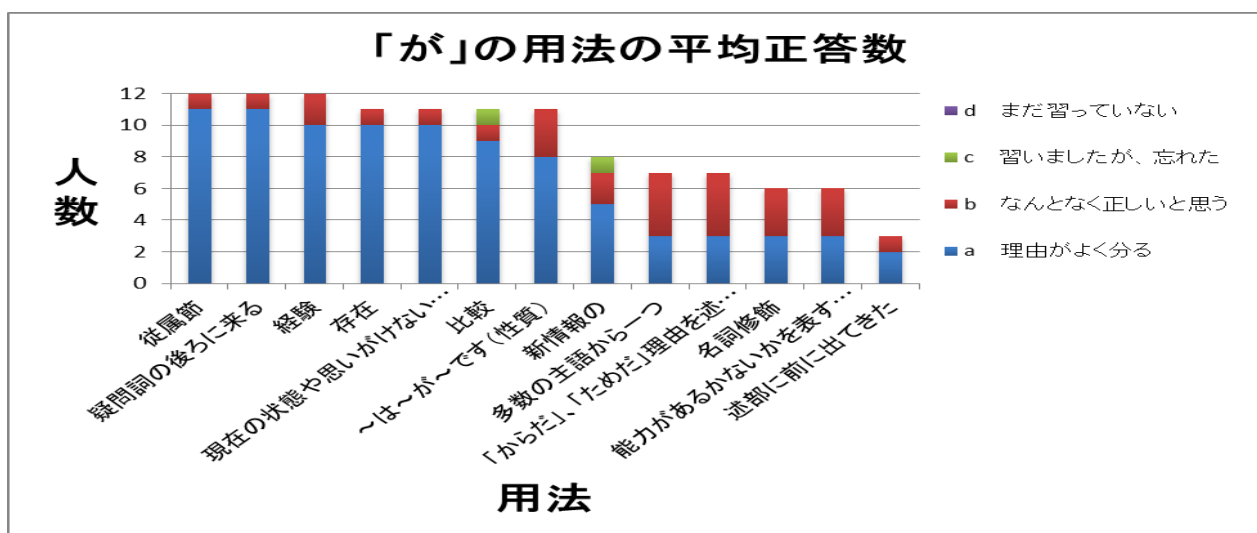


図1 「が」の正答数と選択した理由の関係

6.3 「は」の分析と考察

6.3.1 対比を表す「は」

穴埋めテストの問題 11 は、対比を表す「は」を記入させる問題である。この問題に答えた学習者の解答は下の表に示す。「は～は」は、30・31 両方に「は」を記入した場合、「は～が」は、空欄 30 に「は」、空欄 31. に「が」を記入した場合、「が～は」は、空欄 30 に「が」、空欄 31 に「は」、「が～が」は、空欄 30・31 両方に「が」を記入したということである。

問題 11 去年の冬 (30.) 寒かったが、今年の冬 (31.) 暖冬だ。

表 12 30・31 の間に対する解答

| | は～は | は～が | が～は | が～が |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| スリランカ人 | 5 | 5 | 1 | 1 |
| 日本人 | 5 | 0 | 0 | 0 |

この問題に関して空欄 30 と 31、両方とも正しく答えることが出来た人だけを正解とした。空欄の両方とも正しく解答出来た学習者は 5 人だけで、対比を表すときに使う「は」の文法をよく分かっていないことが明らかになった。

6.3.2 最低限を表す「は」

穴埋めテストの問題 15 番の空欄 40 は最低限を表す「は」を記入させる問題で具体的に、下の例がある。

一年に最低 1 回 (40.) 旅行したい。

この問題に対する学習者の解答は下の表 13 の通りである。

表 13 40 の間に対する解答

| | は | が | 助詞が必要ないと解答した人 |
|--------|---|---|---------------|
| スリランカ人 | 5 | 5 | 2 |
| 日本人 | 5 | 0 | 0 |

この問題に正しく答えられたスリランカ人は 12 人中 5 人だけで、助詞の「は」も「が」も入れないと思った学習者が 2 人いた。したがって、最低限を表す時に使う「は」の文法を理解していないことが分かった。

6.3.3 述部に、前に出てきた名詞と同じ名詞がある時、主語につける「が」

また、穴埋めテストの問題 13 には、アンケートに解答した日本人の解答に揺れが見られた。表 14 の「は～が」は、空欄 35 に「は」、空欄 36 に「が」を記入した場合、「は～は」は、35・36 両方に「は」を記入した場合、「が～は」は、空欄 35 に「が」、空欄 36 に「は」、「が～が」は、空欄 35・36 両方に「が」を記入したということである。スリランカ人と日本人の正答率を表 14 に示す

A: ここからヒマラヤ山 (35.) 見えますか。

B: ええ、あれ (36.) ヒマラヤ山です。

表 14 35・36 の間に対する解答

| | は～が | は～は | が～は | が～が |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| スリランカ人 | 0 | 0 | 11 | 1 |
| 日本人 | 4 | 0 | 0 | 1 |

「ここからヒマラヤ山 (35.) 見えますか。」という間に、日本人の学生の4人は「は」を選んでいるが、スリランカ人の日本語学習者の全員は「が」を選んでいる。日本人は、他の山もあることを想定してヒマラヤ山は見えるかという認識、つまり取り立ての「は」を使用して答えているのに対して、スリランカ人は初級レベルの日本語を勉強する時、見える、聞こえるなどの無意識動詞の場合「が」を使うと勉強するので多くの人は「が」を選んだと考えられる。スリランカ人は、取り立ての「は」について意識できていないため、スリランカ人にとって取り立ての「は」は習得の難しい用法であると考えられる。

6.4 「は」の正答率と選択した理由の関係

「は」の正答率が高かった、否定形を表す時使う「は」(9人)、複文の主節で使われる「は」(10人)、疑問詞の前にくる「は」とその答えの「は」(6人)、「～は～が～です」の形で名詞の生質を表す「は」(7人)、主語についての説明の時の「は」(主題を表す「は」)(6人)の用法とその答えを選んだ理由を分析すると、選択肢「a. 理由がよく分かる」を選んだ人が多かった。上の用法の前に空欄の中で示す数字は選択肢「a. 理由がよく分かる」と答えた人の人数である。しかし、正答率が高かった「からだ」「ためだ」使った文の事実を述べる部分の後ろに付く「は」(4人)の用法に限っては、選択肢「b. なんとなく正しいと思う」を選んだ学習者が多いことが分かった。

一方、対比を表す「は」の用法の正答者は低かったが、正答を選んだ理由が分かって選択したと答えた学習者が多かったことが分かった。

「は」の正答率と答えを選択した理由に関して正答率がかつた用法について学習者は理解できて高答えた傾向があった。正答率が低かった用法に意識がなくなり傾向があった。

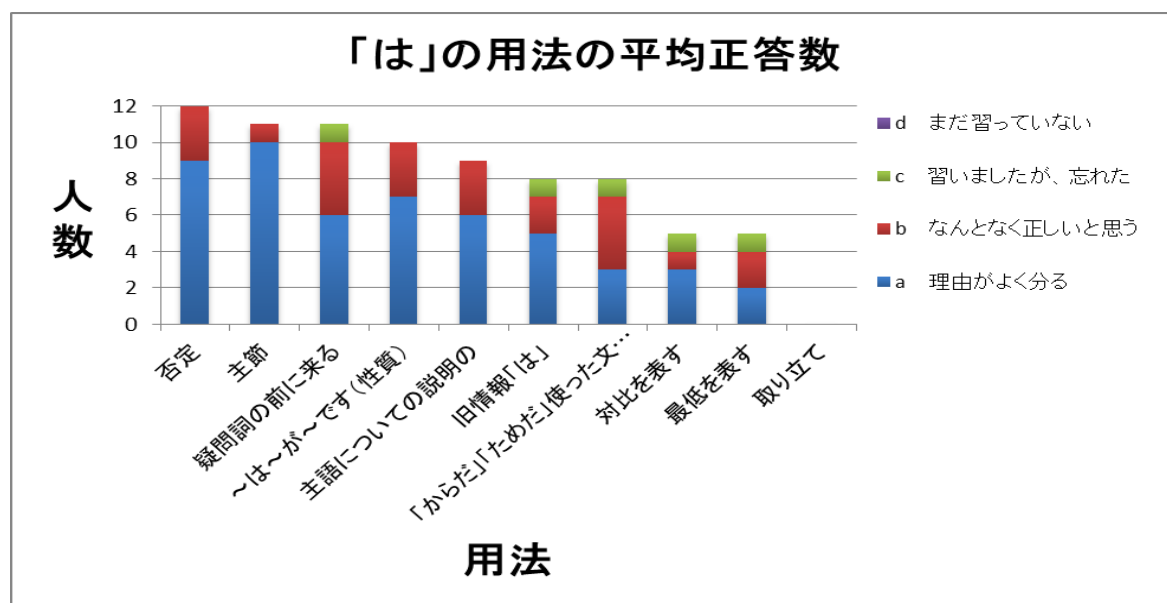


図1 「が」の正答率と選択した理由の関係

7. まとめと今後の課題

穴埋めテストの答えを選択した理由について、明確な意識を持って解答した用法は学習者にとって習得が容易で、明確な意識がない用法は学習者にとって習得が難しい用法であると考えられる。今回の調査の結果によって、スリランカ人の日本語学習者にとって習得しにくい「は」と「が」の用法が明らかになった。正答率が低く、学習者にとって習得が難しいと感じる「が」の用法は①述部に、前に出てきた名詞と同じ名詞があり、相手に伝えたい部分が主語である時、主語につく「が」、②能力があるかないかを表す「出来る」「わかる」などの動詞の場合使う「が」、③名詞修飾の「が」、④「からだ」「ためだ」を使った文では、理由を述べる部分の中で使う「が」、⑤多数の主語から一つ選ばせる質問の文の主語につける「が」の5つであることが分かった。正答率が高かった、①複文の従属節で使われる「が」、②疑問詞の後にくる「が」とその答えの「が」、③経験を表す時使う「が」(～ことがあります)、④存在を表す時使う「が」、⑤現在の状況や思いがけないことが起きたときの「が」、⑥比較を表す時の「が」(～のほうが)、⑦「～は～が～です」の形で名詞の性質を表す「が」の7つの用法は比較的習得が容易な用法だと推測される。

正答率が高かった「が」の用法の答えを記入する際、「が」を選択した理由について明確に意識できている傾向にあり、正答率が低かった「が」の用法の答えを記入する際には回答の理由が明確ではなくなる傾向にあった。

「は」の用法のうち、正答率が低く学習者にとって習得しにくいと思われるものとして①対比を表す「は」、②最低限を表す「は」がある。一方、正答率が高かった①否定形を表す時使う「は」、②複文の主節で使われる「は」、③疑問詞の前にくる「は」とその答えの「は」、④「～は～が～です」の形で名詞の性質を表す「は」、⑤主語についての説明の時の「は」(主題を表す「は」)は比較的習得が容易な用法だと推測される。

正答率が高かった「は」の用法の答えを選択する際、理由について明確に意識できている人が多いことが明らかになった。ただし、正答率が高かった『からだ』『ためだ』を使った文の事実を述べる部分の後ろに付く「は」の用法の答えを選択する際には、理由について明確な意識を持っていないことが分かった。

本研究で行った調査では、様々なレベルの「は」と「が」の用法があり、すべての用法を同様に扱うことが難しいため、今後はその「は」と「が」の用法の整理を再検討する必要がある。また、アンケート調査の答えを記入した理由として4つの選択肢を設定したが、学習者は「は」と「が」の用法についてどのような判断基準を持っているか、十分に知ることが出来なかったため、その選択肢を再度見直す必要がある。本研究では、学習者が「は」と「が」の様々な用法の選択理由を明確に意識しているかどうか調査したが、今後の課題として、学習者は「は」と「が」の用法についてどれくらい説明できるか、どのような判断基準を持っているのかを調査する必要がある。

今後は、シンハラ語の文法をさらに分析し、日本語の助詞との関連を調査したうえで、スリランカ人の日本語学習者が「は」と「が」の用法を正しく習得することができる指導方法や教材を考えていきたい。また、「は」と「が」だけでなく、その他の助詞についてもどのような用法がスリランカ人にとって誤用しやすいのかも調べる必要がある。

アンケート

スリランカから来たチャマーリです。日本語日本文化研修生として群馬大学の国際センターで勉強しています。修了論文で、「日本語における「は」と「が」」の助詞について調べています。ご協力をお願いします。個人の情報は、アンケート以外に使用しませんので、以下の項目にご回答をお願いします。

- ・ 出身国：
 - ・ 日本語学習歴：（ ）年（ ）ヶ月
 - ・ どちらかの（ ）に○をつけてください。
- J L P T : 有り（ ）→レベルN（1、2、3、4、5）
無し（ ）

- 1) （ ）中に「は」または「が」を書いてください。
- 2) (1)–(52)の助詞を選んだ理由を下の a-d の中から当てはまる答えを一つ選んで「O」を書いてください。
- a) 理由がよく分かります (හේතුව වැටහේ)
 - b) なんとなく正しいと思います (කෙසේ හෝ නිවැරදි යැයි සිතමි.)
 - c) 習いましたが、忘れました (ඉගෙනගන්නද අමතක වී ඇත.)
 - d) まだ習っていません (මේ දක්වා ඉගෙන ගෙන නැත.)

例：星 (1. が) 出ている。冬の星 (2.は) きれいだ。

1. a)...O...b).....c)....d)....
2. a)b).....c)...O..d).....

- 問1 A: ここから私の家 (1.) 見えます。
B: ああ、茶色の建物 (2.) あなたの家ですか。
A: いいえ、あれ (3.) 私の家で (4.) ありません。
C: 白い建物 (5.) 私の家です。

1. a)b).....c).... d)....
2. a)b).....c).... d)....
3. a)b).....c).... d)....
4. a)b).....c).... d)....
5. a)b).....c).... d)....
6. a)b).....c).... d)....

- 問2 A: イスルさん (6.) 何回シーギリヤに登ったことがありますか。
B: 6、7回登ったこと (7.) あります。

7. a)b).....c).... d)....

- 問3 A: お母さん (8.) 週末 (9.) いつもどんなことをしていますか。
B: そうですね。そうじをしたり、植物に水をあげたり、ヌゲーゴダ (නුගේගොඩ) やマハラガマ (මහරගම) へ買い物に行ったりします。
A: ヌゲーゴダやマハラガマへよく行きますか。
B: そうですね。マハラガマへよく行きます。
A: マハラガマのほう (10.) 家から近いんですか。

8. a)b).....c).... d)....
9. a)b).....c).... d)....
10. a).....b).....c).....d).....

問 4 修学旅行の場所をリワットン (රිවට්ටන්) に決めました。あの辺 (11) 緑 (12) 豊かで、山もきれいです。ただ、ヒル (කුඩුල්ල) (13) いっぱいいるの (14) 問題です。

問 5 私 (15) そばに猫 (16.) いると、いつも、話しかけてしまう。しかし (17.) 人間の言うこと (18.) 完全に分るわけ打破内。

問 6 昨日から雨 (19.) 降り始めた。雨 (20.) 今朝も降り続き、毎時 60mm を越えた。

問 7 A: デザート (21.) 何にしますか。
B: ケーキもアイスクリームもおいしそうですね。
A: ケーキ (22.) いいですか。それともアイスクリーム (23.) いいですか。
B: そうですね、アイスクリーム (24) いいです。

問 8 A: 今、日本語を教えてください。教授 (25.) 定年になったら、だれ (26.) 次の日本語の教授になるんですか。
B: 準教授のニメーシャー (නිමේෂා) 教授だと思う。

問 9 A: 大変だ。郵便局の前で交通事故 (27.) 起きた。すぐ救急車を呼んでくれ。
B: えっ、事故? 119 番に電話します。

問 10 昨日のコンサートで知らない男性 (28.) 声かけてきた。話を聞いて見るとその男性 (29.) 弟の友達だった。

問 11 去年の冬が寒かった (30.)、今年の冬 (31.) 暖冬だ。

問 12 私の家族 (32.) コロンボに引越したの (33.)、父 (34.) 転勤になったからです。

11. a).....b).....c).....d).....

12. a).....b).....c).....d).....

13. a).....b).....c).....d).....

14. a).....b).....c).....d).....

15. a).....b).....c).....d).....

16. a).....b).....c).....d).....

17. a).....b).....c).....d).....

18. a).....b).....c).....d).....

19. a).....b).....c).....d).....

20. a).....b).....c).....d).....

21. a).....b).....c).....d).....

22. a).....b).....c).....d).....

23. a).....b).....c).....d).....

24. a).....b).....c).....d).....

25. a).....b).....c).....d).....

26. a).....b).....c).....d).....

27. a).....b).....c).....d).....

28. a).....b).....c).....d).....

29. a).....b).....c).....d).....

30. a).....b).....c).....d).....

31. a).....b).....c).....d).....

32. a).....b).....c).....d).....

33. a).....b).....c).....d).....

34. a).....b).....c).....d).....

- 問 13 A: ここからヒマラヤ山 (35.) 見えますか。
B: ええ、あれ (36.) ヒマラーヤ山です。
- 問 14 A: この動物園にはゾウやライオン (37.) いますか。
B: ゾウ (38.) いますが、ライオン (39.) いません。
- 問 15 一年に最低一回 (40.) 旅行したい。
- 問 16 スリランカ (41.) 多民族国家で、シンハラ人、タミル人、イスラム人 (42.) 共に暮らしている。シンハラ人 (43.) シンハラ語を、タミル人 (44.) タミル語を、イスラム人 (45.) アラビア語を使う。また、スリランカ (46.) 自然 (47.) 豊かでたくさんの動物がいる。野生のゾウもいる。ゾウには、アジアとアフリカという 2 種類 (48.) いる。アジアゾウ (49.) 耳 (50.) 小さく、アフリカゾウ (51.) 耳 (52.) 大きいと言う。
35. a).....b).....c).....d).....
36. a).....b).....c).....d).....
37. a).....b).....c).....d).....
38. a).....b).....c).....d).....
39. a).....b).....c).....d).....
40. a).....b).....c).....d).....
41. a).....b).....c).....d).....
42. a).....b).....c).....d).....
43. a).....b).....c).....d).....
44. a).....b).....c).....d).....
45. a).....b).....c).....d).....
46. a).....b).....c).....d).....
47. a).....b).....c).....d).....
48. a).....b).....c).....d).....
49. a).....b).....c).....d).....
50. a).....b).....c).....d).....
51. a).....b).....c).....d).....
52. a).....b).....c).....d).....

参考文献

1. 庵・高梨他(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、スリエーネットワーク
2. 庵・高梨他(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』、スリエーネットワーク
3. Ibrahimov, Y. (2010) 「特定課題研究報告アゼルバイジャン人中・上級日本語学習者に見られる「は」と「が」の誤用に関する考察－バクー国立大学日本語学習者を対象に」『日本言語文化研究会論集/日本言語文化研究会・編』6、pp. 155-182、日本言語文化研究会
4. 友松悦子・和栗正子(2007)『中級日本語文法 要点整理 ポイント20』、スリエーネットワーク
5. 謝 副台・金城 尚美(2005) 「日本語学習者の『は』と『が』の使い分けに関する一考察：中国語母語話者と韓国語母語話者の場合」『琉球大学留学生センター紀要』2号、留学生教育、pp. 41-59
6. 野田尚史(1985)『日本語文法セルフマスター シリーズ1 はとが』、くろしお出版
7. 宮岸哲也(2010) 「「は」と「が」の使い分けに関わる日本語とシンハラ語の文法概念」『安田文芸論叢：研究と資料』第2輯、pp. 25-48、安田女子大学日本文学会

引用文献

1. 佐治圭三(1984) 「外国人にはどうしてハとガの違いがわからないのか」『国文学解釈と教材の研究』6号、pp. 80-86